

## 1. はじめに

トマト葉かび病は、県内の施設栽培ミニトマトで被害が問題となる病害であり、複数薬剤に対して感受性が低下した耐性菌が確認されている（本誌第140号、2022年7月）。そこで、耐性菌にも有効な薬剤の検討を行った。

## 2. 材料および方法

2020年3月に印南町で採取した葉かび病菌（アゾキシストロビン・チオファネートメチル・ボスカリド・ペンチオピラド複合耐性菌：菌株1）と、2022年4月に印南町で採取した葉かび病菌（チオファネートメチル・ボスカリド・ペンチオピラド複合耐性菌：菌株2）の2菌株を用いた。ポット栽培のミニトマト‘キャロル7’（草丈約30cm）に、供試薬剤（表1）を10ml/株散布した翌日、各菌株の孢子懸濁液を噴霧接種した。接種4週間後に18～27小葉/株（5複葉分）の発病を、指数0：小葉に病斑を認めない、1：病斑面積が小葉の5%未満、2：5%-25%未満、3：

25%-50%未満、4：50%以上の基準で調査し、発病度を式： $\Sigma$ （指数×指数別小葉数）/（4×調査小葉数）×100、防除価を式： $100 - (\text{薬剤散布区発病度} / \text{無散布区発病度}) \times 100$ で算出した。

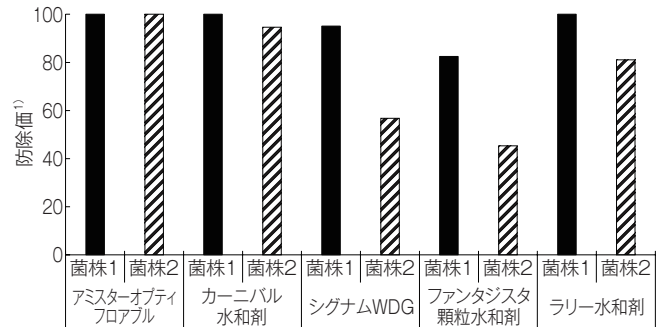


図1 トマト葉かび病に対する各種薬剤の防除効果

1) 式： $100 - (\text{薬剤散布区発病度} / \text{無散布区発病度}) \times 100$ で算出した。

## 3. 結果

シグナム WDG およびファンタジスタ顆粒水和剤は、菌株によって防除効果に違いがあったのに対し、アミスターオプティフロアブル、カーニバル水和剤、ラリー水和剤は両菌株に対して防除効果が高かった（図1）。

## 4. おわりに

複数薬剤に対して感受性が低下した葉かび病菌2菌株に対し、アミスターオプティフロアブル、カーニバル水和剤、ラリー水和剤の防除効果が高いことが分かった。しかし、これらの薬剤の使用に際しては果実の汚れが問題となる。今後はこれらの薬剤の活用に向け、展着剤加用による汚れの軽減および発病への影響を検討する予定である。

（環境部 木村 響）

表1 供試薬剤

薬剤名 <sup>1)</sup>	FRACコード <sup>2)</sup>	希釈倍数
アミスターオプティフロアブル （アゾキシストロビン・TPN）	11・M5	1000倍
カーニバル水和剤 （ジメトモルフ・TPN）	40・M5	1000倍
シグナム WDG （ピラクlostロビン・ボスカリド）	11・7	2000倍
ファンタジスタ顆粒水和剤 （ピリベンカルブ）	11	2000倍
ラリー水和剤 （ミクロブタニル）	3	1000倍

1) かつこ内に有効成分を示した。

2) 有効成分を作用機序により分類したコード。

## 【人事異動】 一令和5年4月1日付け一

「転入」 小川 大輔（栽培部 主任研究員）

中野 沙織（環境部 主査研究員）

「採用」 南方 千景（環境部 研究員）

「転出」 川西 孝秀（果樹園芸課 主任）

衛藤 夏葉（果樹試験場 主任研究員）

農業試験場ニュース No.142

令和5年7月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾160

電話：0736-64-2300（代） FAX：0736-65-2016

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/top.html>

